

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	国際連携機構
-----------------------	---------------	---------------	--------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(6)-⑬ (SGU2-4-6) ジョイントディグリー(JD)の開発とダブルディグリー(DD)の拡充	2014年度	2023年度	必要【選択型】	要
内容				
<p>【目的】 本学のスーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業の目標となっている共同学位制度については、海外協定大学とのダブルディグリー留学(以下、「DD 留学」)を継続し拡充すると共に、新たに国際連携教育課程制度(ジョイントディグリー制度、以下、「JD 制度」)の設置を目指す。 注)DD 留学は、日本と外国の大学が、教育課程の実施や単位互換等について協議し、双方の大学がそれぞれ学位を授与する制度。JD 制度は、日本と外国の大学等が大学間協定に基づき連携して教育課程を編成し、両大学が連名で学位記を出せる制度。なお、外国の大学と連携して JD 制度を設置する場合は、設置認可が必要。</p> <p>【内容】 上述の目標を達成するために次の取り組みを行う。</p> <p>① 学士号ダブルディグリー留学制度(派遣): 現行のカナダのマウント・アリソン大学と社会学部、国際学部と商学部、及びオーストラリアのクイーンズランド大学と国際学部との学士号を対象とした DD 留学(派遣型・交換型)の授業料、奨学金制度を持続可能なものとする。 新中期計画後期1年目に設置したフランスのルール第1大学と経済学部との DD 留学(交換型)を実施する。実施に際しては、授業料、奨学金制度を持続可能なものとする。 2018年7月に締結された国際学部とビクトリア大学ビジネススクールとの DD 留学協定については、2021年9月の派遣を目指す。これ以外の大学と DD 留学(交換型および派遣型)等の設置を目指す。</p> <p>②ジョイントディグリー(JD)制度: 英語による学位課程のあるフランスのルール第1大学経済経営研究科と経営戦略研究科(IBA)との間で検討中。</p> <p>③修士号ダブルディグリー留学制度(派遣): 大学院修士レベルで DD 留学制度を新たに導入する。初めてのプログラムとしてイギリスのスターリング大学と言語コミュニケーション文化研究科との DD 留学(派遣型)を設置する。このために、大学院 DD 留学規程等の学則の制定の他、大学院 DD 留学に対応する学費や、奨学金制度を新たに制定する。上記以外に双方向・交換型の DD 留学制度を新たに設置する。ドイツのエアランゲン・ニュルンベルク大学経営経済研究科と経済学研究科、およびフランスのルール第1大学経済経営研究科と経営戦略研究科(IBA)が検討中。これ以外の大学院研究科と DD 留学(交換型および派遣型)等の設置を目指す。</p> <p>④ 大学院ダブルディグリー留学制度(受入): 現行の北京第2大学、南京大学、湖南大学と言語コミュニケーション文化研究科、サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学と理工学研究科との大学院ダブルディグリー留学制度(受入)を継続し、拡充する。</p> <p>⑤ コンセクティブディグリー型の留学制度(受入): 台湾師範大学と理工学研究科との間で行われている学部を3年間で終了し、本学の大学院に入学できるコンセクティブディグリー型の受入留学制度を拡充する。</p>				

■新中期計画(後期)から以下の帳票を移管。

(国際化)実施計画 「A-1-e 海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充」

概要:

国際的に活躍できる世界市民を育成する有効な手段の一つとして、また優秀な留学生を確保する手段の一つとして、海外協定大学とのダブルディグリー留学(以下、DD 留学とする。)を拡充する。前期で確立したカナダ、オーストラリアの2大学とのDD留学を持続可能な形で継続するとともに、新たに欧州、ASEANを主とした他地域の大学とも制度を確立する。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	JD 制度の確立	フランスのリール第1大学経済経営学部と経営戦略研究科(IBA)との間で、JD 制度の確立。
指標2	DD 留学生の人数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)	年度毎にDD留学派遣先に在籍する学生の人数(学部生及び大学院生)
指標3	DD 留学の新規導入校数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)	新たにDD留学制度の協定を締結した数(学部及び大学院)

目標1<指標1> JD 制度の確立

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	1	1	1	1	—	—
実績	0	0	0	0	0	0
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	—		
実績						

目標2<指標2> DD 留学生の人数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標						
実績	2	3	6	7	4	4
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標						
実績						

目標3<指標3> DD 留学の新規導入校数 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標						
実績	1	1	1	0	1	0
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標						
実績						

2. 実施計画:ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
① 学士号ダブル ディグリー留学制度 (派遣) (マウント・アリソン 大学、クイーンズラ ンド大学、リール第 1大学、ビクトリア大 学)	策定段階	海外2大学、KG2学部	海外2大学、KG2学部	海外2大学、KG3学部	海外2大学、KG3学部	海外2大学、KG3学部	
	2021年3月 末段階	海外2大学、KG2学部	海外3大学、KG3学部	海外3大学、KG4学部/ 新規DD留学の検討	海外3大学、KG4学部/ 新規DD留学の検討	海外4大学、KG4学部/ 新規DD留学の検討	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	—	—	—	—	—	
	2021年3月 末段階	海外4大学、KG4学部/ 新規DD留学の検討	海外4大学、KG4学部/ 新規DD留学の検討	海外4大学、KG4学部/ 新規DD留学の検討	海外4大学、KG4学部/ 新規DD留学の検討	海外4大学、KG4学部/ 新規DD留学の検討	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階						
2021年3月 末段階							
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
②ジョイントディグリー (JD)制度(派遣) の開発	策定段階	—	—	—	—	—	
	2021年3月 末段階	検討・交渉	検討・交渉	検討・交渉	検討・交渉	検討・交渉	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	—	—	—	—	—	
	2021年3月 末段階	検討・交渉	検討・交渉	検討・交渉	検討・交渉	検討・交渉	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階						
2021年3月 末段階							

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
③ 修士号ダブル ディグリー留学制度 の新規導入 (スターリング大学、 その他)	策定段階	—	—	—	—	—
	2021年3月 末段階	検討・交渉	検討・交渉	海外1大学、KG1研究科/ 新規DD留学の検討	海外1大学、KG1研究科/ 新規DD留学の検討	海外1大学、KG1研究科/ 新規DD留学の検討
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	—	—	—	—	—
	2021年3月 末段階	海外1大学、KG1研究科/ 新規DD留学の検討	海外1大学、KG1研究科/ 新規DD留学の検討	海外1大学、KG1研究科/ 新規DD留学の検討	海外1大学、KG1研究科/ 新規DD留学の検討	海外1大学、KG1研究科/ 新規DD留学の検討
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2021年3月 末段階					
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
④大学院ダブルディ グリー留学制度(受 入)の継続と拡充	策定段階	—	—	—	—	—
	2021年3月 末段階	海外4大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	—	—	—	—	—
	2021年3月 末段階	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討	海外5大学、KG2研究科/ 新規プログラムの検討
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2021年3月 末段階					

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
⑤コンセクティブディグリー型の留学制度(受入)の継続、拡充	策定段階	—	—	—	—	—
	2021年3月末段階	海外1大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討	海外1大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討	海外2大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討	海外2大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討	海外2大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	—	—	—	—	—
	2021年3月末段階	海外2大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討	海外2大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討	海外2大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討	海外2大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討	海外2大学、KG1研究科/ 新規プログラムの検討
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2021年3月末段階					

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降	
非公開						
人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降	
非公開						

4. 進捗状況・得られた成果

2016 年度	<p>■ジョイントディグリー(JD)の開発とダブルディグリー(DD)の拡充</p> <p>① .オーストラリア キーンズランド大学に初めて派遣した国際学部生が DDを修了した。また、2017 年2月に1名のDD生を新たに派遣した。経済学部からフランス・リール第1大学に2名のDD生を新たに派遣した。</p> <p>② ジョイントディグリー制度については、IBA で引き続き検討する</p> <p>③ イギリス スターリング大学へ言語コミュニケーション文化研究科から1名の学生が DD 学生1名を修士課程に派遣、また、2017 年度派遣者を募集し、2名が入学した。2017 年9月に派遣予定。</p> <p>④ 理工学研究科とサティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との DD 制度で1名が在籍。言語コミュニケーション文化研究科と中国の3大学(南京、湖南、北京第二)に加えて、2015 年度から新たに中国人民からの受け入れを開始、中国4大学から DD 制度で計11名が在籍(5月1日現在)。</p> <p>⑤ 台湾師範大学に加えてインドネシア パジャジャラン大学と理工学研究科との間でコンセクティブディグリー型の協定を締結。後者から1名の学生をうけいれる。</p>
2017 年度	<p>■ジョイントディグリー(JD)の開発とダブルディグリー(DD)の拡充</p> <p>① 国際学部からオーストラリア キーンズランド大学へDD生として1名が在籍中。経済学部からフランス・リール第1大学にDD生1名を新たに派遣した。</p> <p>② ジョイントディグリー制度については、IBA で引き続き検討中。</p> <p>③ 2016 年9月に言語コミュニケーション文化研究科からイギリス スターリング大学大学院修士課程へ派遣された1名が DDを修了した。2017 年9月に新たに2名が DD 学生として同修士課程へ派遣。また、2018 年度派遣者を募集し、1名が入学した。2018 年9月に派遣予定。</p> <p>④ サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との DD 制度で2名が本学理工学研究科に在籍。中国の4大学(南京、湖南、北京第二、中国人民)から DD 制度で計9名が言語コミュニケーション文化研究科に在籍。</p> <p>⑤ インドネシア パジャジャラン大学からコンセクティブディグリー型の協定に基づき1名が新たに理工学研究科に入学。</p>
2018 年度	<p>■ジョイントディグリー(JD)の開発とダブルディグリー(DD)の拡充</p> <p>① 国際学部からオーストラリア キーンズランド大学へDD生として1名が在籍中。経済学部からフランス・リール第1大学にDD生1名を新たに派遣した。</p> <p>② ジョイントディグリー制度については、IBA で引き続き検討中。</p> <p>③ 2016 年9月に言語コミュニケーション文化研究科からイギリス スターリング大学大学院修士課程へ派遣された1名が DDを修了した。2017 年9月に新たに2名が DD 学生として同修士課程へ派遣。また、2018 年度派遣者を募集し、1名が入学した。2018 年9月に派遣予定。</p> <p>④ サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との DD 制度で2名が本学理工学研究科に在籍。中国の4大学(南京、湖南、北京第二、中国人民)から DD 制度で計9名が言語コミュニケーション文化研究科に在籍。</p> <p>⑤ インドネシア パジャジャラン大学からコンセクティブディグリー型の協定に基づき1名が新たに理工学研究科に入学。</p>
2019 年度	<p>■ジョイントディグリー(JD)の開発とダブルディグリー(DD)の拡充</p> <p>① 経済学部から 2018 年 9 月にフランス・リール大学にDD制度で派遣した1名が 2019 年 5 月に帰国した。また、経済学部から 2019 年 9 月にフランス・リール大学にDD制度で1名派遣した。その後、2020 年度以降の協定の更新について交渉中である。</p> <p>② 商学部から 2018 年 9 月にカナダ・マウントアリソン大学にDD制度で1名派遣した学生が継続して在籍している。DD 協定書を改定して締結した。</p> <p>③ 言語コミュニケーション文化研究科から 2018 年 9 月にイギリス・スターリング大学大学院修士課程に派遣した1名が 8 月に修了して帰国した。</p> <p>④ 経営戦略研究科のジョイントディグリー制度、ダブルディグリー制度、交換留学については、引き続き検討中である。</p>

	<p>⑤ サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との DD 制度で1名が本学理工学研究科に在籍。中国の4大学(南京、湖南、北京第二、中国人民)から DD 制度で計9名が言語コミュニケーション文化研究科に在籍。中国の4大学との DD 協定書は改定して締結する予定。</p> <p>⑥ インドネシア パジャジャラン大学からコンセクティブディグリー型の協定に基づき1名が新たに理工学研究科に入学。</p>
2020 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2018 年度	<p>① 社会学部、商学部、国際学部からカナダのマウント・アリソン大学に若干名の学生を派遣する。国際学部からオーストラリアのクイーンズランド大学へ派遣中の DD 学生が留学を継続する。経済学部からフランスのリール第 1 大学に最大2名の学生を派遣する。国際学部は、新たに、カナダ、ビクトリア大学と DD 協定を締結する(2019 年度入学生を対象、2021 年度派遣予定)。</p> <p>② 経営戦略研究科(IBA)とフランスのリール第1大学経済経営研究科とのジョイントディグリー制度は、時間をかけて検討する。それに代り双方向型ダブルディグリー留学制度の設置を目指す。その準備のために、2017 年度から両研究科間で新たに開始した交換留学を継続する。</p> <p>③ 言語コミュニケーション文化研究科からイギリスのスターリング大学への DD 生の派遣を継続する。</p> <p>④ 理工学研究科とサティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との DD 協定に基づく受入を継続する。言語コミュニケーション文化研究科と中国の4大学(南京、湖南、北京第二、中国人民)との DD 協定での受入を継続する。</p> <p>⑤ 理工学研究科と国立台湾師範大学とのコンセクティブディグリー協定を更新する。2016 年 9 月に理工学研究科とインドネシアのパジャジャラン大学とのコンセクティブディグリー型の留学制度で1名の学生の受入を継続する。</p>
2019 年度	<p>① 社会学部、商学部、国際学部からカナダのマウント・アリソン大学に若干名の学生を派遣する。国際学部からオーストラリアのクイーンズランド大学へ若干名の学生を派遣する。経済学部からフランスのリール第 1 大学に若干名の学生を派遣する。国際学部は、カナダ、ビクトリア大学への DD 学生を募集する。</p> <p>② 経営戦略研究科(IBA)とフランスのリール第1大学経済経営研究科とのジョイントディグリー制度は、時間をかけて検討する。それに代り双方向型ダブルディグリー留学制度の設置を目指す。</p> <p>③ 言語コミュニケーション文化研究科からイギリスのスターリング大学への DD 生の派遣を継続する。</p> <p>④ 理工学研究科とサティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との DD 協定に基づく受入を継続する。言語コミュニケーション文化研究科と中国の4大学(南京、湖南、北京第二、中国人民)との DD 協定での受入を継続する。</p> <p>⑤ これに加えて、インドネシアのパジャジャラン大学とのコンセクティブディグリー型の留学制度での受け入れを継続する。</p>

2020 年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会学部、商学部、国際学部からカナダのマウント・アリソン大学に若干名の学生を派遣する。国際学部からオーストラリアのクイーンズランド大学へ若干名の学生を派遣する。経済学部からフランスのリール大学に若干名の学生を派遣する。国際学部は、カナダ、ビクトリア大学への DD 学生を募集する。 ② 経営戦略研究科(IBA)とフランスのリール大学経済経営研究科とのジョイントディグリー制度や双方向型ダブルディグリー留学制度、研究科間の交換留学についてその実現可能性を慎重に判断して検討する。 ③ 言語コミュニケーション文化研究科からイギリスのスターリング大学への DD 生の派遣を継続する。 ④ 理工学研究科とサティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との DD 協定に基づく受入を継続する。言語コミュニケーション文化研究科と中国の4大学(南京、湖南、北京第二、中国人民)との DD 協定での受入を継続する。 ⑤ 理工学研究科とインドネシアのパジャジャラン大学とのコンセクティブディグリー型の留学制度での受け入れを継続する。 ⑥ 理工学部と台湾東海大学とのコンセクティブディグリー協定の締結を行う。
2021 年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会学部、商学部、国際学部からカナダのマウント・アリソン大学に若干名の学生を派遣する。国際学部からオーストラリアのクイーンズランド大学へ若干名の学生を派遣する。経済学部からフランスのリール大学との協定について更新について 2020 年度に引き続き交渉し、学生を派遣する方向で検討する。国際学部は、カナダ、ビクトリア大学への DD 学生を募集する。 ② 経営戦略研究科(IBA)とフランスのリール大学経済経営研究科とのジョイントディグリー制度や双方向型ダブルディグリー留学制度、研究科間の交換留学についてその実現可能性を引き続き慎重に判断して検討していくが、当面の課題が多く、見通しが立たない。 ③ 言語コミュニケーション文化研究科からイギリスのスターリング大学への DD 生の派遣を継続する。 ④ 理工学研究科とサティヤ・ワチャナ・キリスト教大学との DD 協定に基づく受入を継続する。言語コミュニケーション文化研究科と中国の4大学(南京、湖南、北京第二、中国人民)と受入の領域について改定した DD 協定に基づいて受入を継続する。 ⑤ 理工学研究科とインドネシアのパジャジャラン大学とのコンセクティブディグリー型の留学制度での受け入れを継続する。 ⑥ 理工学部と台湾東海大学とのコンセクティブディグリー協定の締結について引き続き検討を行う。
2022 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	<p>旅費については、(SGU2-1-2)『学部・研究科での派遣プログラムの開発』にて対応してください。</p> <p>シラバス等の英訳料については、当初予算で計上済。</p> <p>印刷製本費(報告書作成)および広報費(パンフレット、ウェブページ)については、経営戦略研究科とリール第1大学とのジョイントディグリー制度について、設置認可申請が2016年3月の予定であるため、予算化を見合わせます。</p> <p>インターンシップ調整、実施については、<保留>。経営戦略研究科とリール第1大学とのジョイントディグリー制度設置は未確定のため、保留とします。</p> <p>人件費については、予算化を見合わせます。</p>
2015 年度	後期中期計画からの移管については、申請どおり計画を承認します。
2016 年度	—
2017 年度	—
2018 年度	—
2019 年度	シラバス等の英訳料については、全学的にシラバス主要項目の英語化が完了したため、本予算は2020年度から計上しません。必要が発生する場合は予算外申請してください。
2020 年度	—

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・協定大学と本学と相互に学ぶことで学位を取得する JD/DD 制度については各学部研究科の協力が必須であり、実現可能なプログラムから導入しているが、開発と拡充が伸び悩んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止	・同左(引き続き開発と拡充が必要)

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	